

## 熊本県立北稜高等学校 平成30年度学校評価計画表

|  |               |
|--|---------------|
| 1 学校教育目標   |               |
| 「教育は人なり」の理念のもと、「率先垂範、師弟同行」を旨として、全職員相互の研鑽及び指導法の創意工夫を図り、一人一人の生徒の健全育成に邁進する。 |               |
| 1 伝統ある校風の継承と創造   | 2 特色ある総合高校づくり |
| 3 学力の充実と個に応じた進路指導  | 4 教育環境づくりの推進  |
| 5 人権教育の推進  | 6 安全教育の推進     |
| 7 地域社会から信頼される学校づくり   |               |

|            |           |                 |
|------------|-----------|-----------------|
| 2 本年度の重点目標 |           |                 |
| 1 愛情ある生徒指導 | 2 基礎学力の定着 | 3 個に応じた進路指導     |
| 4 美しい環境作り  | 5 安全教育の推進 | 6 家庭・地域社会との連携強化 |

| 3 自己評価総括表 |           |              |  |  |    |  |
|-----------|-----------|--------------|--|--|----|--|
| 評価項目      |           | 評価の観点        | 具体的目標  | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |
| 大項目       | 小項目       |              |  |  |    |  |
| 学校経営      | 職員の資質向上   | 教科指導力の向上     | 学習意欲を喚起する授業展開の工夫とアクティブラーニングを取り入れた能動的学習から、基礎学力の向上と定着を図る。  | ・研究授業や公開授業を毎学期実施し、合評会や研究協議を行い、相互に研鑽する。また、授業参観や積極的な教科研修を促す。   | B  | ICTを活用した授業研修会を実施や授業での言語表現活動を取り入れたグループ学習、発表などにも積極的に取り組んでいる。しかしながら授業参観や強化研修会等は十分な時間の確保ができていない。 |
|           |           | 生徒指導力の向上     | 生徒一人一人の理解に努め、人格形成を支援する。  | ・職員間及び中学校との連携強化、生徒情報の共有と組織的体制づくり、カウンセリングマインドの養成。   | B  | 中高連絡会や中学校との情報交換の機会を設けるなど情報の共有を行っている。また、職員間での情報の共有し、必要に応じて積極的に各分野の研修会等へ参加している。                |
|           |           | 保護者との信頼関係の構築 | 保護者と積極的にコミュニケーションを図り、信頼を得られるよう、教育実践を行う。  | ・課題を先送りにせず、迅速かつ組織的に対応する。特に配慮を要する生徒や困り感のある生徒には個々に応じた誠実な対応を心がける。   | A  | 保護者との連絡をはかりながら特に配慮を要する生徒や困り感のある生徒への個別の対応には複数の職員で丁寧に行っている。                                    |
|           | 開かれた学校づくり | 保護者・地域住民との連携 | 積極的に情報発信を行い、魅力ある総合高校としての推進を図る。また、学校行事に保護者等に参加を促し、地域関係機関との連携を図り、学校の魅力を理解してもらう。育友会総会・学年行事等の出席率70%以上を目指す。 | ・中高連携や高大連携及び企業間交流を実施する。<br>・学校の行事や学習の成果などについて、ホームページ上のブログを毎日更新する。<br>・農産物の販売や奉仕作業など、地域住民に生徒の活躍する姿をPRする機会を増やす。<br>・学科ごとに中学校との交流事業を実施する。・田んぼアート、若蔵、北稜フェア等の取組 | B  | 育友会総会への参加者は、欠席者集会を含めると昨年度より10ポイント上昇し、約68%となった。   |

| 評価項目             |             | 評価の観点            | 具体的目標  | 具体的方策   | 評価 | 成果と課題  |
|------------------|-------------|------------------|--|---|----|--|
| 大項目              | 小項目         |                  |  |   |    |  |
| 学力向上             | 学習習慣の育成     | 基礎学力の定着          | 北稜タイムで「マナトレ」を有効に活用し、学習に落ち着いて取り組む雰囲気醸成する。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>「マナトレ」を実施することで、つまずきのある部分を把握し、学習支援することで基礎学力を身につける。</li> <li>週末の家庭学習課題（普通教科）を与え、学力向上を図る。</li> </ul>                  | C  | 生徒によって取り組みへの意欲に違いがあったため、つまずいたままの生徒がいたが、雰囲気としては落ち着きが見られた。基礎学力を身につけさせる方策を考える必要がある。                         |
|                  | 学力の向上       | 個別指導や発展的な学習指導の推進 | 個別指導による学習指導で欠点科目保持者をゼロに近づける。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査前指導、個人指導を充実させ、欠点科目保持者には長期休業中に学習会を実施する。</li> </ul>  | C  | 学年によって、やや指導の差があった。また、多くの欠点を保持する生徒が見られた。  |
|                  |             |                  | 発展的な学習をしようとする意欲を喚起する。                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>土曜学習会や模試・検定試験に積極的に取り組ませる。</li> </ul>   | B  | 計画的に取り組ませることができたが、明確な目標を元に考えさせなければならない。  |
| キャリア教育<br>(進路指導) | 進路意識の啓発     | 進路の早期決定と目的意識の啓発  | 各学年・学科の連携と継続した進路指導の展開と全職員によるキャリアアカウンティングの実施。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通し職員に対するキャリアアカウンティングの啓発活動。進学ガイダンス、職場見学、インターシップ、オープンキャンパス等に積極的な参加。</li> </ul>                                    | B  | お仕事探検フェアや各学校のオープンキャンパスなど積極的な参加を促すことができた。   |
|                  | 進路希望の達成     | 進路目標実現の進路保障      | 就職・進学体制の確立と進路目標達成<br>100%を目指す。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたり、受験対策のため、進路目的別の課外とともに個別指導の充実を図る。</li> <li>企業訪問を積極的に行い、そこで得た情報を生徒への指導、支援に活かす。</li> </ul> | B  | 就職希望者の内定100%は達成できた。だが、進学・就職ともに、第一希望に不合格となり、第二希望への進学・就職となった生徒が若干名いた。                                      |
| 生徒指導             | 基本的な生活習慣の確立 | 清々しい整容           | 整容指導にかかると継続指導の対象者をなくす。地域の皆様から愛されるような清々しい制服の着こなしを目指す。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>整容指導に対する統一した意識を全生徒と全職員が持ち、自治自立の精神育成を目標に、厳しい中にも愛情を持って粘り強く指導する。</li> <li>地域から愛され、信頼されることで自立と自信が持てるよう指導する。</li> </ul> | C  | ほとんどの生徒が清々しい整容で学校生活を送っている反面、改善指導が徹底されなかった生徒もいた。当たり前のことを当たり前でできる生徒を育て、学校内外で落ち着いた生活を送り、地域から信頼されるよう今後も努めたい。 |
|                  |             | マナーの向上           | あいさつや目上の人への言葉遣い・正しい道徳を身につけさせる。携帯電話の利用についてのマナー向上を意識付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的なあいさつや公共の場におけるマナー向上を機会あるごとに指導する。</li> <li>「携帯電話利用ルール五箇条」を遵守するよう生徒会中心に呼び掛ける。</li> </ul>                          | B  | 携帯電話・スマートフォンのマナーの向上は進んでいると感じている。トラブルが生じた際も、相談しやすい状況である。公共心の育成には学校生活全体を通して機会を設けていきたい。                     |

| 評価項目              |                                | 評価の観点                            | 具体的目標   | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題   |
|-------------------|--------------------------------|----------------------------------|---|--|----|---|
| 大項目               | 小項目                            |                                  |   |  |    |   |
| 人権教育の推進           | 学校全体で取り組む人権・同和教育の推進            | 人権教育の内容の充実                       | 人権意識の確立を促す。授業や部活動、学校行事などの校内での生徒との関わりのみならず、家庭での様子を把握し、生徒を多面的に理解し、生徒と向き合う時間を確保する。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>最も大切なものは授業であり、クラス活動や部活動、掃除や学校行事など日々の関わりの中で常に生徒達の人権を大切にしたい関わりを積み重ねる。</li> <li>講演会や人権学習LHRを通し、人権について考える機会を重ねていく。</li> </ul>   | B  | 各学期1回の人権学習LHRと2学期に人権教育講演会を行い、生徒の人権意識を高めることができた。しかし、ハンセン病や水俣病問題等個別の人権課題に関する学習の時間が不足した。   |
|                   |                                | 職員研修の充実                          | 人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨き、人権意識を高める。またスクールカウンセラーの協力を得て、カウンセリングマインドを養う職員研修を実施する。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に寄り添い、保護者や中学校等関係機関と繋がり、生徒を多面的に理解し、人権感覚を磨くための校内研修を実施するとともに、校外における様々な人権教育の研修会への参加を促す。</li> </ul>  | A  | 教育相談部による生徒理解研修で職員の共通理解を図り、人権尊重の視点に立った教育活動を行うことができた。また、全員レポート研修を実施し、各自の実践を人権教育の視点で検証しあうことができた。   |
|                   |                                | 特別支援教育の体制づくり                     | 学習面、生活面における困り感を持つ生徒の支援を積極的に行い、学校における自立的生活を促す。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーとの連携を強化し、組織的に支援できる体制を確立する。また、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>   | B  | 個別の教育支援計画・指導計画の作成徹底と活用をすすめた。教育相談部において気になる生徒の情報を学年と連携し、SC・SSWにつなぐ、もしくはケース会議を開催するなどした。  |
| いじめ防止等            | すべての生徒にとっていじめのない安心して生活できる環境の確立 | いじめを早期発見できる体制づくり                 | 日常生活の中で生徒としっかりコミュニケーションをとり、生徒の様子を的確に把握する。また生徒の変化やサインに気づき、職員間で情報を共有し、担任を中心に組織的に早期対応する。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>「心のアンケート」を年3回実施して、生徒状況の把握に努める。</li> <li>人権教育と結びつけ、生徒の心のきずなを深められるような講演等を行う。</li> <li>学年団による情報交換を定例化し、いじめ事案が発生した場合、管理職への報告と対応マニュアルに沿って事実正確な情報を収集し、迅速に対応する。</li> </ul> | B  | 年3回「心のアンケート」(3学期は3月予定)を実施し、いじめのサインを早期に発見、対応することによって、いじめの発生や重大化を未然に防ぐことができた。いじめ事案の件数は昨年度より増加したが、学年から挙がった情報を教育相談部会で精査し、すぐに対応することができた。より迅速な対応を図るためにも、来年度からは部会への全学年主任の参加が望ましい。  |
|                   |                                | いじめを早期解決する組織づくり                  | 常に最悪の事態を想定し、担任、学年団を中心に組織的な対応を図る。  |  |    |   |
| 地域連携(コミュニティ・スクール) | 防災型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進   | 学校運営協議会での共通理解と協力体制の構築<br>防災教育の充実 | 学校運営協議会の協力体制と防災教育を確立する。<br>学校防災(地震・津波等)マニュアルの職員間の共通理解<br>日常的な防災意識を高めるための防災教育と避難訓練のあり方を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を年3回実施する。</li> <li>学校防災(地震・津波等)マニュアルの見直し、職員間での共通認識を図り、日常的に学校危機管理意識と点検と確認を行う。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の中で防災マニュアル及び緊急避難時の対応等について見直しを行った。</li> <li>玉名市との防災協定を締結した</li> <li>防災避難訓練を実施した。</li> <li>職員への防災マニュアルの周知と職員室への掲示</li> <li>環境教育の視点から日頃の防災意識の高揚には不十分であり、日頃から防災に備えた防災教育計画を検討する必要がある。</li> </ul> |

#### 4 学校関係者評価

- ① 学校評価表の学校教育目標をはじめ学校経営・キャリア教育等の校務分掌ごとに具体的な目標と方策に沿って成果や今後の課題について明確に記載され、評価されている。
- ② 地域との連携や交流にも力を入れ、生徒たちの地域での活動や活躍は評価できる。
- ③ 整容指導をはじめ学校のルールや基準で、厳しく徹底して生活習慣の定着に向けて熱心に行われ、多くの生徒は理解できていると思われる。しかしながら、一部では、十分とは言えないため、理解を促し、生徒・保護者との信頼関係を得ながら、多くの生徒がより充実した高校生活を過ごしてほしい。
- ④ 人権教育や様々な支援体制が充実しつつあり、中学校や他の機関と連携した手厚い指導がなされている。
- ⑤ 情報システム部を中心に学校の魅力発信に積極的に取り組み、全学科が小学校や中学校、地元のイベントなどへ参加している。
- ⑥ 学力向上や部活動に多くの生徒が加入することにより活性化できることを期待している。
- ⑦ 多くの学校行事があることで、学校は生徒や保護者あるいは地域により密着し信頼されている。これからも取り組んで欲しい。そのためにも生徒や保護者・地域の声やニーズをキャッチし、よりよい関係づくりに努めて欲しい。

#### 5 総合評価

- ① 学校教育目標、重点目標をしっかりと定められたうえで、自己評価項目の中でA評価「保護者との信頼関係の構築」と「職員研修の充実」があったのは大変素晴らしい。
- ② 保護者との信頼関係があれば、学生も先生と正しい方向で向き合うことができるし、学校が安定する。親が学校や先生の悪口を言うところから問題がはじまる。今後も信頼関係をしっかりとってもらいたい。
- ③ 十分、おおむねで8割が達成していることは評価できる。
- ④ 近年、少子化とはいえ、受検者が減少傾向にある。学校経営の観点からも、進路指導、学力向上のための指導の充実と地域から愛される学校生活指導に努めていただくようお願いしたい。
- ⑤ 地域のイベントなどで生徒を見かけるとよく挨拶をしてくれ、様々な地域の行事に参加しているので感謝している。
- ⑥ 近年、定員を満たしていないが、魅力ある学校へ行きたいと中学生が思えるようにするには、中学生の意見も大事であると思う。
- ⑦ 学校や各学科の特徴を磨き、卒業生が地域で活躍する姿や評価を学校の中外でどんどん紹介するような情報発信もいいと思う。
- ⑧ 学校はこれまで十分な連携や十分な活動を行っている。これらを大切にこれからも地道に取り組んで欲しい。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ① 生徒・保護者との信頼関係づくりをはじめ生活指導や学習指導において生徒一人一人に応じた対応が求められることから働き方改革の視点から、組織体制を再構築する。
- ② 基礎学力の定着に向けた北稜タイムの活用を見直し、生徒が落ち着いた中で、学習活動ができるよう環境を整える。
- ③ 主体的に生徒が学ぼうとする意欲を高めるための授業の工夫・改善に取り組み、ICT機器の活用や言語表現活動、グループ学習・活動など学科の特色に合わせた取りみの検証を進め、より効果的な学習指導につなげていきたい。